

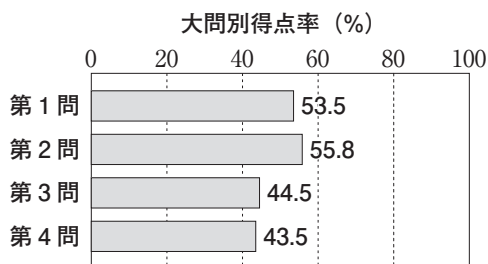
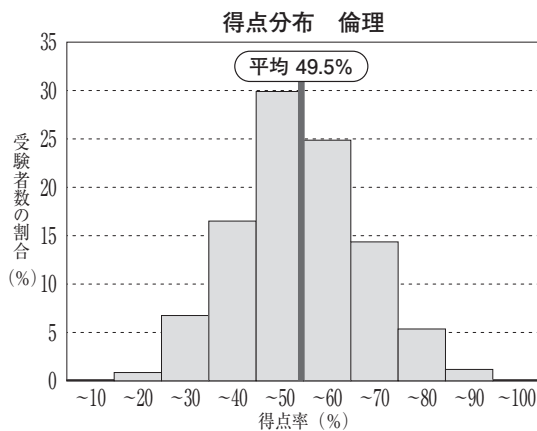
倫 理

教科書やテキストを読み、演習を重ねて理解を完璧なものにしよう。

I. 全体講評

今回の2017年度「第4回8月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は49.5点であった。前回(第3回6月)に比べてやや上昇している。前回と大問別に比べてみると、第1問の青年期・現代社会分野は前回とほぼ同じ得点率を維持し、第2問の源流思想分野、第3問の日本思想分野、第4問の西洋近現代思想分野が多少伸びていることから、夏の間に全分野を一通り学習した受験者が多いことがうかがえる。一通り学習して得点が増えているのだから、これを二回、三回と積み重ねればその分だけ得点は上昇するはずである。着実に学習を積み重ねてほしい。

センター試験の倫理は、近年明確に難易度が上がっている。センター試験本番まであと4か月余り。知識を確実にインプットし、得点に結びつけるため、過去問演習などの実戦演習を重ねてほしい。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

青年期・現代社会分野で高得点を取るために、もう少し知識をつけよう。

第1問の得点率は53.5%。受験者の各設問の選択を見ると、知識が増えてきているのは分かるが、少し細かいことが出されたり、あいまいな知識だったりすると、たちまち誤りの選択肢を選んでしまっていることが分かる。問2 [2]を見ると、アとイの正誤判断はできたがウの選択を誤った受験者が約半数いた。ピアジェの教科書掲載数は少ないが、2016年度の本試験で誤肢として出題されている。ピアジェについて知っておいて損はないだろう。また、問7 [7]のアファーマティブ・アクションの問題も、誤肢の①を選択した受験者が約半数いた。この問いの解説に実質的平等という語があるが、①を選択した受験者は、この語の意味をよく考えてほしい。

第2問 源流思想分野

知識はついてきている。問題の出題のされ方に慣れよう。

第2問の得点率は55.8%。正答率が50%以上の問題が多い中で、問4 [14]、問5 [15]、問7 [17]の3問が足を引っ張った。問4 [14]は老子と墨家の思想を問う問題であったが、多くの受験者が、空欄aと空欄cは分かったものの、空欄bがどちらも老子の言葉であったために迷ってしまったようだ。単に言葉の字面だけを覚えているとこのような結果になってしまう。ぜひ、言葉の意味も把握しておこう。キリスト教について問われた問5 [15]では、パウロについての正誤は判断できたが、アウグスティヌスとトマス・アクィナスの記述で迷ってしまった受験者が多かったようだ。トマス・アクィナスについては「信仰の優位」という決定的な語句が文章中になかったためかもしれないが、「理性と信仰の調和」という内容はある。冷静に考えて判断したい。問7 [17]は、正答の②も最も選択率が高かった④も

文章の書き方がひねられているので、現段階では正答率が低くなるのもやむを得ないだろう。受験直前に解き直して正解できたら、自信を持ってよい。

第3問 日本思想分野

問題文をしっかりと読むこと。

第3問の得点率は44.5%。問3 [22]と問4 [23]で特に苦戦したようだ。なかでも問4 [23]は今回のすべての問題のなかで正答率が最も低かった。まず鎌倉仏教が問われた問3 [22]を見ると、アで約半数が誤っている。この文章には「題目」という決定的な誤りが含まれている。「題目」は重要用語である。問題文を読み流してはならない。また、この問題の選択率を見ると、かなり分散している。鎌倉仏教の理解が進んでいないようなので、表を作るなどして各宗派の特色を把握しよう。問4 [23]は国学をしっかりと理解していないと正解できない内容になっている。例えば、最も選択率が高かった③の本居宣長の文章の誤りのポイントは、もののあはれが仏教や儒学に通じるものではないということにある。正答が契沖というのも難度を押し上げているが、③については、「仏教や儒学に通じる」という文章を読んで、おかしいなと思えるレベルになってほしい。

第4問 西洋近現代思想分野

近代思想から、教科書の記述を丁寧に一つ一つ押さえていこう。

第4問の得点率は43.5%。得点率を押し下げる要因となった3問を見ていく。問4 [32]は全体的に選択が①と②に分かれた。誤肢の②は非常に難解な文章に「絶対精神」というヘーゲルの用語がくっつけられているが、ヘーゲルについて理解が進んでいればこのような難解すぎる選択肢に惑わされず、素直に①を選べるだろう。問6 [34]では、約4割が「人間は自由の刑に処せられている」という言葉を知らなかったようだ。この言葉を知らなかった受験者はこれを機会に覚えておこう。また、著書で選択を誤った受験者も多いが、著書は本試験でも出題されることが多いので、しっかりと整理しておくこと。問7 [35]は近年の本試験で出題頻度が高まっている現代思想についての問題であったが、現段階では正答率が低くなるのは仕方がない。近代思想の理解を確固としたものにしてから現代思想に挑んでほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆9月中に全範囲の学習を完了すること。

夏の間全範囲の学習を一通り終えた、という受験者が多いだろうが、まだという人にとっては早急に全範囲のインプットを終えることが課題である。特に夏休みから倫理の学習を始めた受験者は、まだ手つかずの分野が残っていることだろう。9月中にすべてを終わらせると覚悟を決めて、教科書、参考書を読み切ろう。

◆過去問演習を始める。

全範囲のインプットを終えている受験者は、過去問演習を始めよう。センター試験倫理は選択肢の文章が他の科目と比べて長く、文章の読み取り方が甘いために誤答するというケースが多々見受けられることに注意したい。趣旨読解問題はもちろん、資料文読解問題も含めて、文の内容を的確に読み取ることにも力を注ごう。

◆次回の模試に向けて。

次回、10月の「全国统一高校生テスト」はこれまでの模試とは意味合いがまったく異なる。というのも、結果次第で志望校が左右される可能性をはらんでいるからである。これまでの模試のように、失敗したので反省します、次こそ頑張ります、では済まされない。結果を残す。そのことが大きく求められるのが、次回の模試である。ここが勝負どころと、肝に銘じて臨んでほしい。